

わだいな



▶削り方を熱心に観察する児童



夏休み 小学生と高齢者の交流会 倉岳

夏休みの楽しい思い出をつつたよ!

7月25日、「夏休み 小学生と高齢者の交流会」が宮田公民館で行われ、宮田地区に住む倉岳小学校の児童と同地区老人会の会員40人が参加しました。これは宮田地区振興会が、地区内の世代間交流を図ろうと毎年開催しているもの。この日は、児童たちが老人会の会員から小刀の使い方などの手ほどきを受け、竹とんぼづくりを体験。完成後は、外に出て竹とんぼ飛ばしを楽しんでいました。その後、全長20mにつないだ竹を使い、倉岳特産のシモンそうめんを流しそうめんを実施。児童たちは、流れてくるそうめんをじょうずにすくいながら、おいしそうにほうばっていました。

▶流しそうめんのようす



ミカン(不知火)の木オーナー制度命名式 有明

おいしいミカンがたくさんなりますように!

ミカン(不知火)の木オーナー制度に取り組む大浦地区振興会が7月24日、オーナーを招いて木の命名式を行いました。同制度は、1本1万円で木の持ち主になり、実ったミカンはすべてもらえるというもので、栽培や管理は主に地元の農家が担当します。この日は、オーナーやその家族など約250人が参加し、名札に名前や絵などを描き自分の木に結び付けつける“命名作業”を実施。参加者は、「おいしいミカンがたくさん収穫できるといいな」と笑顔で話していました。



▲名札を自分の木に結びつけるオーナーたち

ジャンボカボチャの収穫 栖本

大きなカボチャがとれたぞ〜

7月21日、町内で農業を営む原田勝延さんの畑で、巨大なカボチャが収穫されました。このカボチャは、アトランティックジャイアンツという、主に家畜の飼料として使われる品種。この日は、約1アールの畑に実った巨大なカボチャ7個を収穫し、いちばん大きなものは直径50cm、重さ37kgもありました。原田さんは、「来年は100kgを目ざしたい」と意気込んでいました。なお、このカボチャは現在、栖本温泉センターなどに展示されています。皆さん、ぜひご覧ください。



▲2人がかりでやっと持ち上がるカボチャ(原田さんは右)

御領平和祈念祭 五和

恒久平和と東日本大震災の復興を願って

御領まちづくり振興会主催による「御領平和祈念祭」が8月9日、御領地区の招魂場で開かれ地区住民など約100人が参加しました。これは同振興会が、平和の尊さを考える機会を作ろうと、長崎に原爆が投下された日にあわせて毎年開催しているもの。会場では、御領小学校の児童による平和への作文朗読や地元合唱団などによるコンサートを実施。また、今回は東日本大震災の復興を願い、被災地へ贈る短歌・俳句の作品や同小学校の児童が絵付けした“復興風鈴”の展示のほか、参加者による応援メッセージの記帳も行われました。

その後、これらの作品は福島県川俣町立山木屋小学校の児童などへ送られました。



▲歌を披露する地元の合唱団の皆さん



◀復興風鈴を見る子どもたち



▲一生懸命に網を引く生徒たち

“とんとこ漁”体験 御所浦

島の伝統漁法を肌で実感

8月8日、御所浦中学校と御所浦北中学校の生徒23人が、御所浦町に戦前から伝わる漁法“とんとこ漁”を体験しました。これは市教育委員会が、伝統的な漁法を学んでもらうことなどを目的に毎年実施。“とんとこ漁”という名称は、魚を網の中に追い込むために、船などをたたいていた音が由来であるといわれています。この日生徒たちは、地元の漁船3艘に分乗し御所浦港から約5kmの沖合いで、ふだんは見ることが少ない漁法を体験したほか、とれたての魚に直接触れたりして大喜びでした。

全国高等学校総合文化祭 牛深

最高の舞台上で牛深ハイヤ踊りを披露!

7月27日から同29日まで、「第35回全国高等学校総合文化祭(ふくしま総文)」の郷土芸能部門が岩手県盛岡市の盛岡市民文化ホールで開かれ、牛深高校郷土芸能部が県予選を勝ち抜き3年ぶりに出場しました。同部門は、東日本大震災の影響でいったんは中止となりましたが、全国の学生からの熱い要望で開催が決定。ステージでは、これまでの練習の成果を十分に発揮し、元気あふれる牛深ハイヤ踊りを披露しました。部員たちは、「優勝はできませんでしたが、最高の舞台になった」と話していました。



▲郷土芸能部員と関係者の皆さんで記念の1枚